

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

2022年度前期 開講講座
5月7日(土) 13時00分～15時30分
ウクライナ情勢と朝鮮
 講師＝^{ユンソングイ}高演義（朝鮮大学校客員教授）

1、朝鮮と向きあう思想と実践

日本と朝鮮の関係は〈唇齒の関係〉と言われるが、その実態は決して平等・互恵の関係ではなかったし、いまもない。未来を創りだすためには、過去のあり方を問い、その克服をめざす現在の実践のなかでしか、豊かな未来は育みまうがない。その実践をうながす思想を鍛えよう！

- ①**5月7日(土) ウクライナ情勢と朝鮮**
講師＝^{ユンソングイ}高演義（朝鮮大学校客員教授）
- ②**7月23日(土) 映画『私はチョンソンスラムです』上映**
(2回上映)
講師＝長谷川和男（朝鮮学校無償化排除に反対する連絡会共同代表）
- ③**7月31日(日) 『康ソンセンニムと学ぶ朝鮮と日本の2000年』**
(スペース伽耶)を上梓して 〈夏季セミナー〉
講師＝^{カンソンワン}康成銀（朝鮮大学校・朝鮮問題研究センター研究顧問）
- ④**9月10日(土) 日朝平壤宣言から20年**
—— 拉致問題の現在
講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
- ⑤**9月24日(土) <フィールドワーク>**
東京朝鮮中高級学校 学校沿革展示室を訪問
—— 在日朝鮮人のハッキョ(学校) にかける思いを知ろう！
^{キムチョルス}案内＝金哲秀（朝鮮大学校・朝鮮問題研究センター副センター長）

2、声をあげよう！ともに闘おう！

—— いま労働者・労働組合に必要なもの

日本のサンケン電気資本による韓国サンケンの偽装廃業は、闘う労働者・労働組合を嫌悪し、生産点から排除しようという悪質な攻撃だ。弾圧に負けず、コロナ禍も国境も乗り越える、闘う労働者・市民の国際連帯をさらに強めよう。日本の政府・独占はフリーランスを「保護」することで「雇用によらない働き方」を拡大しようと目論む。しかし、フリーランスは“生身の働き手”。取引上のルールだけでは仕事と暮らしを守ることはできない。“生身の働き手”であることによって生じる問題・困難をカバーするための保護こそが必要だ。

- ①**5月28日(土) 韓国サンケン労組の闘いと**
尾澤さんの裁判闘争勝利をめざして
—— KBS放映『日本へ走れ 連帯の道を！』(50分)をみて考える
講師＝尾澤孝司（韓国サンケン労組を支援する会事務局次長）
- ②**6月8日(水) 「フリーランス保護法」制定の動きをどう見るか**
講師＝杉村和美（出版ネット執行委員・編集者）

3、西側帝国主義による国際法秩序の解体

(全4回:前期2回、後期2回)

講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）
 ソ連「崩壊」後、歯止めのなくなったアメリカを中心とする西側帝国主義諸国はユーゴスラヴィア、アフガニスタン、イラク、リビア、シリアと侵略戦争を繰り返し、国際法秩序の完全な解体を進めた。現在のウクライナ事態をまねいた最大の要因もここにある。日本もまた西側帝国主義の一員であり、わたしたちはあらためてこのことを想起する責任があるのではないか。

ユーゴスラヴィアからシリアまで
 ——ウクライナ情勢を前に想起する

- ①**6月14日(火) ユーゴスラヴィア**
- ②**9月6日(火) アフガニスタン・イラク戦争**
〈夏季セミナー〉
- 7月31日(日) 『ドンバス—2016ドキュメンタリー』**
(監督：アンヌ＝ロール・ボネル) 上映予定

4、日中国交回復50年の今年、日中関係の未来を探る

今年は、日本と中国が国交を回復して50年となる。ウクライナ情勢、混迷を深める米中対立、「台湾有事」を煽り日米軍事同盟の深化に走る自公政権は、日本と中国の関係に暗い影を落としている。日中関係は、世論動向をみたとき戦後最悪の状態にある。今講座では、日中友好運動の経験の教訓、現代中国における「民族」と「階級」の関係の再考をとおして、日中関係の未来を探る。

- ①**7月9日(土) 日中友好運動の体験から**
講師＝村田忠禧（神奈川県日中友好協会・横浜国立大学名誉教授）
 - ②**7月30日(土) 日中関係の未来のために** 〈夏季セミナー〉
講師＝浅井基文（国際政治学者）
 - ③**8月27日(土) 現代中国における「民族」と「階級」の関係**
—— 中国共産党第20回党大会を前にして
講師＝羽根次郎（明治大学教員・中国近現代史研究）
- 〈夏季セミナー〉
 ●**7月30日(土) 『中国貧困地区・大涼山—日本人監督が見た現代中国の“多様性”』**（監督：竹内亮）上映予定

5、日本の短編小説を読む

講師＝立野正裕（元明治大学教員）
 戦前期から戦後までの日本近現代文学に、あくまでも文学の可能性を探求しつつ、素朴な浪漫主義を乗り越える鋭い現代的視点と想像力を駆使し、短編小説に新たな感受性を結実させた傑作群のなかから、代表作として五編を選んだ。奮ってご参加ください。（開始時間は各回とも午後6時30分）

- ①**6月22日(水) 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」と**
「淫売婦」（共に「葉山嘉樹短篇集」岩波文庫）
- ②**7月13日(水) 中島敦「李陵」**（「李陵・山月記」新潮文庫）
- ③**8月24日(水) 黒島伝治「渦巻ける鳥の群」**（「黒島伝治作品集」岩波文庫）
- ④**9月14日(水) 大岡昇平「捉まるまで」**（「俘虜記」から）（「俘虜記」新潮文庫）

6、運動論としての「転向」

—— 中野重治の評論・小説から考える

今期は前期に引き続き中野重治（1902～1979年）の仕事を検討する。第1回では、転向という「消えぬ疵（あざ）」を抱えつつ「日本の革命運動の伝統の革命的批判」へ加わることを誓った「文学者に就て」について—貴司山治へ）と宮本百合子の転向文学批判「冬を越す蕾」を取り上げる。第2・3回では、中野のいわゆる「転向小説五部作」から三作品を選んだ。なお本シリーズの表題は、児玉明「運動論としての「転向」—続「村の家」論のための一視点」（『社会評論』No.94（1994年4月1日））に依る。児玉明は文芸評論家・湯地朝雄のペンネーム。

- 報告＝HOWS受講生（各回の報告者は調整中）
- ①**6月4日(土) 『「文学者に就て」について』と宮本百合子「冬を越す蕾」**
 - ②**7月20日(水) 『第一章』と『鈴木・都山・八十島』**
 - ③**9月3日(土) 「村の家」**
※講座の開始時間は、7月20日は18時45分から、他の2回は13時からです。

7、この人にきく

- ①**5月14日(土) 沖縄復帰50年の現実**（仮題）
講師＝^{メイマキミツ}明真南斗（『琉球新報』記者）
- ②**6月11日(土) 改憲勢力優勢の状況下、**
どう反戦平和の闘いに取り組むか
講師＝飯島滋明（名古屋学院大学教授）
- ③**7月2日(土) 「原発事故避難者訴訟」の勝利と**
これからの課題（仮題）
—— 汚染水の海洋放出、がんの多発、等
講師＝國分富夫（「相双の会」代表）
- ④**8月6日(土) 在日同胞社会をみつめて**
—— 記者活動40年のなかで
講師＝^{フミキテツ}琴基徹（『月刊イオ』前編集長）
聞き手＝土松克典（HOWS事務局）

HOWS講座カレンダー 2022年度前期（5月～9月）	
① 5月7日(土) ウクライナ情勢と朝鮮	講師＝高演義
② 5月14日(土) 沖縄復帰50年の現実（仮題）	講師＝明真南斗
③ 5月28日(土) 韓国サンケン労組の闘いと尾澤さんの裁判闘争勝利をめざして	講師＝尾澤孝司
④ 6月4日(土) 運動論としての「転向」 『「文学者に就て」について』と『冬を越す蕾』	報告＝受講生
⑤ 6月8日(水) 「フリーランス保護法」制定の動きをどう見るか	講師＝杉村和美
⑥ 6月11日(土) 改憲勢力優勢の状況下、どう反戦平和の闘いに取り組むか	講師＝飯島滋明
⑦ 6月14日(火) 西側帝国主義による国際法秩序の解体 ウクライナ情勢を前に想起する ユーゴスラヴィア	講師＝富山栄子
⑧ 6月22日(水) 日本の短編小説を読む 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」と「淫売婦」	講師＝立野正裕
⑨ 7月2日(土) 裁判の勝利とこれからの課題（仮題） —— 汚染水の海洋放出、がんの多発、等	講師＝國分富夫
⑩ 7月9日(土) 日中友好運動の体験から	講師＝村田忠禧
⑪ 7月13日(水) 日本の短編小説を読む 中島敦「李陵」	講師＝立野正裕
⑫ 7月20日(水) 運動論としての「転向」 『第一章』と『鈴木・都山・八十島』	報告＝受講生
⑬ 7月23日(土) 『私はチョンソンスラムです』上映 (2回上映)	講師＝長谷川和男
⑭ 7月30日(土) <夏季セミナー> 『中国貧困地区・大涼山—日本人監督が見た現代中国の“多様性”』(監督：竹内亮) 上映予定	講師＝浅井基文
⑮ 7月30日(土) <夏季セミナー> 日中関係の未来のために	講師＝浅井基文
⑯ 7月31日(日) <夏季セミナー> 『ドンバス—2016ドキュメンタリー』(監督：アンヌ＝ロール・ボネル) 上映予定	
⑰ 7月31日(日) <夏季セミナー> 『康ソンセンニムと学ぶ朝鮮と日本の2000年』(スペース伽耶)を上梓して	講師＝康成銀
⑱ 8月6日(土) 在日同胞社会をみつめて —— 記者活動40年のなかで	講師＝琴基徹
⑲ 8月24日(水) 日本の短編小説を読む 黒島伝治「渦巻ける鳥の群」	講師＝立野正裕
⑳ 8月27日(土) 現代中国における「民族」と「階級」の関係 —— 中国共産党第20回党大会を前にして	講師＝羽根次郎
㉑ 9月3日(土) 運動論としての「転向」 「村の家」	報告＝受講生
㉒ 9月6日(火) 西側帝国主義による国際法秩序の解体 ウクライナ情勢を前に想起する アフガニスタン・イラク戦争	講師＝富山栄子
㉓ 9月10日(土) 日朝平壤宣言から20年 —— 拉致問題の現在	講師＝高嶋伸欣
㉔ 9月14日(水) 日本の短編小説を読む 大岡昇平「捉まるまで」	講師＝立野正裕
㉕ 9月24日(土) <フィールドワーク> 東京朝鮮中高級学校 学校沿革展示室を訪問	案内＝金哲秀

≪2022年度前期募集要項≫
 ●定員 本科生20名
 ・全講座25回（各週1～2回程度）
 ・本科生は、すべての講座を受講できます。
 ◎聴講生20名
 シリーズを問わず、自由に講座が選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。

- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円（次期以降は不要）
受講料…前期：25,000円、後期：25,000円
・前期5月、後期11月の開講時までそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円
・聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
・聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円（各講座1回につき）
・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
- 申込方法
・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項
・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。

◎HOWS付属ゼミナール
 HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①HOWS文学ゼミ（戦後文学ゼミを改称）
 チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年から2016年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第1期として、2018年からは第2期、名称もHOWS文学ゼミで再出発しています。第1期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の荒唐した支配的文化状況を変革して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。

夏季セミナー	7月30日(土)～31日(日) (HOWSホールにて開催)
① 7月30日(土) 10:30～13:00 『中国貧困地区・大涼山—日本人監督が見た現代中国の“多様性”』(監督：竹内亮) 上映予定	③ 7月31日(日) 10:30～13:00 『ドンバス—2016ドキュメンタリー』(監督：アンヌ＝ロール・ボネル) 上映予定
② 7月30日(土) 14:00～16:30 日中関係の未来のために 講師＝浅井基文（国際政治学者）	④ 7月31日(日) 14:00～16:30 『康ソンセンニムと学ぶ朝鮮と日本の2000年』(スペース伽耶)を上梓して 講師＝康成銀（朝鮮大学校・朝鮮問題研究センター研究顧問）

お知らせ 2022年前期HOWS講座も新型コロナウイルス感染拡大のため、本リーフレットでお知らせした講座の予定が変更になる場合があります。今期も定員20名の事前予約制として実施します。予定変更の際はお知らせします。